

DCPAM 解析・可視化 意見交換会ログ

高橋分 コメント・議論

- 解析時に使用する定数を namelist ファイルから読めると良い (はしもと)
 - namelist ファイルにはすべての変数を書いているわけではない (デフォルト値の場合には書かない) ので, 計算ログファイルを解釈するのが本当は正しい.
 - 実際に namelist ファイルから ruby スクリプトで変数の値を読んでいる (佐々木)

石渡分メモ

- 分割ファイルはすべて結合する
 - 分割ファイルは気持ち悪い
- データ処理は可能な範囲ですべて ruby でやりたい
- 絵の種類ごとにスクリプトを作っている
 - Makefile でまとめて絵を描くようにしている
- 定数はハードコーディングされている
- 実験ごとのスクリプト
- スクリプトは外から見えるところに置いておきたい
 - 他の人が参考にできるように

はしもと分メモ

- 分割ファイルは結合する
- quick look は gpview
- いつもの絵は同じ GPhys スクリプトで自動生成
- データ処理には Fortran を使う
- 物理量
 - 質量流線関数, 温位, 南北熱輸送フラックス
- 悩み: 絵の並べ方
 - dcphoto を使っている
 - dcmodel-thum も使える (石渡)

榎村分メモ

- gpview を拡張したスクリプトを作って, 基本的にすべてコマンドラインで処理する
- 依存ライブラリ
 - pry
 - parallel
 - ruby-progressbar
- 複数変数を使ったデータ処理もできる
- スクリプトは, MEGA で同期. 自分の管理外の計算機では github を使って同期.
- 大規模データは gem: parallel を使って並列処理.
- 描画時のコマンドは画像ファイルのメタデータに書く
 - メタデータとして書き込むためのコマンド
 - png: mogrify
 - pdf: exiftool
 - eps: ssed

全体に対するコメント・議論

- 継続計算ファイルを結合する方法はある（石渡）
- 沼口さんが作っていた gtvview では, UNIX コマンドのように, 個々の処理をパイプで繋げたかのように使うことができるようにしていた. (竹広)
 - 実態は, 個々の処理ごとに中間ファイルを作って受け渡す
- ruby/GPhys スクリプトで様々な処理をするスクリプトを作っておくとき, 一つのファイルに複数のメソッドをまとめてしまうより, 個々の処理ごとにファイルを作る方が良いかもしれない (中島・藤澤)
 - 特に学生に勉強させるときにはその方がわかりやすい.